

報 告 書

期日：令和4年9月28日（水）～9月30日（金）

【視察地】

9月28日（水） 徳島県 美波町

9月29日（木） 岡山県 倉敷市（児島）

9月29日（木） 岡山県 美咲町

令和4年10月5日

厚生常任委員会

萩 尾 洋

9月28日（水）

（株）あわえ 徳島県美波町

1. サテライトオフィス誘致

地域課題解決にビジネスで取り組むパブリックベンチャー

美波町の課題

- レ 急激な少子高齢化と人口減少・過疎化
- レ 一次産業や商業を中心とした地域型従来産業の衰退
- レ 町内2高校の相次ぐ喪失に代表される地域基盤の弱体化
- レ 震災/津波リスクに対する不安増による工場誘致等の困難化



新たな地域振興施策を必要としていた

経営者 吉田基晴の課題

東京でITベンチャーを起業したものの、競合居並ぶ東京では人材採用が進まず、苦戦が続いていた



新たな人材採用施策を必要としていた

美波町と吉田基晴に訪れた転機

地デジ化に伴うCATV網敷設が県下で進み、過疎地にも日本一の高速ブロードバンド網が構築された。（CATVの世帯普及率は、89.7%で、4年連続全国1位である）

美波町

吉田基晴



IT関連企業の誘致？

地方での人材採用？



サテライトオフィス誘致

サテライトオフィス設立

吉田は美波町の地域特性を活かす働き方を提唱した

“半X半IT”

仕事と個人の大切な「生きX」を両立する

すると、「X」の舞台を求め過疎地に若者が集まった

例えば、サーフィン好きなS君の場合、サーフィンの頻度が月に2回、サーフィンスポットまで2～3時間掛かっていたのが、最短10分。週に3回前後楽しめる。通勤時間約1.5時間が最短10分。自由時間も3倍以上増えた。

地方では企業も個人も存在し活動するだけで役割を担え、感謝される。「一人が複数の役目を担う」→人口減少社会のニーズでもあるとともに都会の若者や経営者が求める充足感がある。

●過疎地にも企業/若者は来る

●地方で可能なワークスタイルは企業である

若者の課題を解決する

美波町⇒民間組織と協働で地方創生

吉 田⇒地域振興をビジネスに

吉田は、「あわえ」のビジネスモデルとして、美波町で地域活性化の処方箋を創りジェネリック薬にして全国・世界に届ける事を目標にしている。

Why at 美波町？

海・山・川と四国霊場札所の歴史に紐付く産業、震災・津波リスクを持つ過疎地。ここで生まれる処方箋はどこにも効く、と自負する。

地域住民・行政・民間組織、3者がそれぞれの強みを活かしメリットを享受「トリプルウィン」

もう一つ、吉田は地方と都市を結ぶ「デュアルスクール」を始めている。

これは、地方と都市の二つの学校を一つの学校として教育を展開するもの。(別資料)

2. 林業活性化とまちおこし

日本最大級の資源・課題、森林を再資源化。100年の森林と産業を創る。

元々、美波町は備長炭製造の基幹産業が盛んで、町の港は炭を都心部へ運搬する港として栄えていた。しかし、後継人が減少し段々下火になり、山は手付かずの状態。

そこで、森林の再資源化に目を付け高級備長炭製造・販売に踏み切ったが、現在の所、炭焼きまでには程遠い状況である。山の麓に窯を設置する準備段階（窯設置の土台・小屋等）である。

備長炭だけではなく、高級薪の製造・販売も視野に入れ、頑張っている吉田さんの姿をみて、炭・薪作りのために、6人もの移住者がかけつけている。黙々と一つの事に向けてひたすらに打ち込む姿勢が共感を得たのだろう。今からが楽しみな事業である。

9月29日（木）

岡山県倉敷市児島

1. 学生服基幹産業からジーンズストリートに産業変革が行われた経緯

児島は、人口約70,000人。瀬戸大橋の岡山側の玄関口で、日本最古の歴史書「古事記」にも登場する歴史ある町である。

1,000年にも及ぶ開拓の歴史～干拓、塩田、綿花栽培～

綿花栽培は、安土・桃山時代に現在の鳥取から伝えられた。温暖な気候で、塩分は多いが土質も育成に適していたため広がった。明治、大正、昭和、平成と各時代の需要やニーズを見極め、すぐに製品化していった児島商人の先見の明と、すぐに製品化できる縫製技術の高さが伺える。

せんいのまち児島

伝 統

江戸時代からの綿花栽培
綿織物・裁断・縫製技術



革 新 性

国産ジーンズ発症の地

- 染色から、織布、縫製、洗い加工まで一連の技術とノウハウが集積する産地
- 世界が認める高い技術力を持つ産地

学生服

体育衣料

作業服

畳 縁

帆 布

ジーンズ

2. 日本初、国産ジーンズの誕生

1960年代、日本初の国産ジーンズがマルオ被服（現在のビッグジョン）にて誕生
次々に、ジーンズの製造に転換する縫製業者が現れた。

3. ジーンズを切り口に、商店街の空き店舗へショップを誘致

～「児島ジーンズストリート」の誕生～

現在、ジーンズショップ等 30店 雑貨店 3店 飲食店 6店

児島 JEANS STREET の構想（別紙参照）

児島地区は、ジーンズを核に「せんい産業」と「観光」を融合させた『産業観光』の推進によるまちづくり、目指すは【児島産地まるごとブランド化】と言い切った。

最後に、今まで以上に良い物を創って、メディアに食付いてもらい、地場産業を使った空き店舗の利活用を挙げている。

ジーンズ業者の空き店舗への進出は、一事業者が名乗り出たところに商工会議所も便乗、そこから一気に加速し、現在のジーンズストリートが誕生した。やはり、一市民の熱意＋商工会議所の後ろ盾があったからこそ出来上がった事業ではなかろうか。あわえの吉田さんも同じと思う。失敗を恐れずに、行政も一つの事に前向きに進んでいく姿勢を見習い、積極的に賑わいのあるまちづくりに取り組んで欲しい。

9月29日（木）

岡山県美咲町

お試し暮らし住宅事業

いわゆる民泊サービスについて。近年の国内外からの観光客の増加等を背景に、自宅の一部や空き家、別荘、マンションの空き室等を活用して宿泊サービスを提供する「民泊サービス」が増えている。民泊サービスを提供する場合は、以下のいずれかの手続きが必要となる。

（1）旅館業法に基づく許可

（2）住宅宿泊事業法に基づく届け出

美咲町は、移住希望者の短期届（お試し届け）の業務形態をとっている。

この営業届は関連法等では、旅館業法の適用外（許可等の手続き不要）。宿泊料の徴収は可。
営業主体の要件は無。農林漁業体験は不要。サービスの概要は、移住希望者に対する次の要件を満たす宿泊サービス・空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づく計画に位置付けられた物件・購入又は長期賃貸の意思が確認されていること・反復継続、不特定多数の利用がないこと、等が挙げられたがグレーゾーンが多いとの事。美咲町は、このグレーゾーンを上手く活用しながら平成23年、空き家の買収。24年、空き家改修等整備。11月1日に空き家等情報バンク制度開始。平成26年7月16日、お試し暮らし住宅制度を開始し、民泊サービスを展開している。

しかし、岡山県内27市町村の内19市町村に、お試し住宅が整備されたこと。また、令和2年からは新型コロナウイルスの影響により、需要は低調。

今回、ミサキアエルプロジェクトとして説明をうけた。このプロジェクトを運営しているのは、今年度4月より公募により配属された、大橋コーディネーターの活躍が目にとまった。女性であり、

細かい所に手が届くというか、きめ細かいお持て成しの心というか、彼女の笑顔が最高であった。

今回の視察は、少子高齢化・過疎化・人口減少が進む本市にも活かせる内容のものであり、我々よりも行政サイドが視察研修を実施して、是非とも IT 企業の誘致を実現させていただきたい。

ここは、海がないから、三分の二が森林だから等言ってる場合じゃない。あるものを活かす事を考えるべき時が来ていると思う。美波町役場のスタッフも生き活きとしていた。本市の職員にも語弊ではあるが、一つの事に拘る職員をつくっていただき、一つの事に邁進できるようフォローしていただきたい。頑張れば頑張った分、人口が増える事を念頭に、是非お願いしたい。

「あわえ」の吉田基晴は、自治体職員向けの、地方創生担当者育成プログラムも用意しています。何時でもお出で下さい、民家をリフォームした研修場兼宿泊施設で待っていますとの事。